

市政を身近に 令和2年度 第1回定例議会、予算特別委員会にて質疑しました！

A YA（アヤ）世代、若年世代のがん患者支援を！

福祉

【予算代表質疑】

質疑のポイント

- ☑ 全国に約5万 8,000 人いる 15 歳から 39 歳の思春期・若年世代 AYA世代と呼ばれるがん患者は、医療の進歩で生存率が向上する中、進学や就職など世代特有の問題を抱えながら、治療を続けている。
- ☑ 患者の精子や卵子などを凍結して保存する、妊よう性費用を補助する県・市協調の制度の狙いと、この世代のがん患者への支援はどうする。

AYA世代のがん患者の場合には、将来、妊娠する可能性を温存するための治療、妊よう性の温存治療というものを選択することが必要になるが、かなりの経済的負担を伴うのが課題である。県・市協調により、この治療費の一部を助成する制度を創設し、将来に向けて前向きに治療に取り組めるよう支援していきたい。



ふるさと納税の活用を！

財政

質疑のポイント

- ☑ 制度が大きく変わったふるさと納税において、クリエイターやデザイナーとの連携による発信や取り組みのねらい。
- ☑ 先進的な政策実現のために、ガバメントクラウドファンディング（課題解決型ふるさと納税）をより活用すべき。

9つの集中PRメニューを庁内で選定し市内のデザイナーやクリエイターと連携をしながら、ウェブサイトを改良し、PRパンフレットを作成した。また、多様な返礼品を 70 点ほど追加し返礼品の充実も力を入れている。

ガバメントクラウドファンディング（自治体が抱える課題や解決策を具体的なプロジェクトとして公開をしてふるさと納税で寄附を募る取り組み）では、これまで5つの事業で活用をしている。令和2年1月末の寄附総額、件数は約6億 3,000 万円、9,900 件（前年度比較+約2億円、+約 1,500 件）となっている。共感して応援をしてもらえるような仕組みづくりを一層進めていく。



H AT 活性化プラン～アートを活かしたまちづくり～

地域



▶ 県美の「美かえる」

HAT神戸エリアは、震災から 25 年を迎え整備が進み、JICAや人と未来センター等の施設もあり魅力ある地域となった。今年度予算案では、アートを活用して再活性化をはかるとあるが、どうしていくのか質疑。新たなシンボルアートを海沿いに設置し、県立美術館と連携したアートを生かしたまちの活性化に取り組む。六甲ミーツ・アートのイベントに出品された作品なども移設する。また、円形広場があるなぎさ公園を生かしてにぎわいづくりを考え、水域利用のためのレガッタ用の乗降用の施設の整備も考えている、とのこと。

教育現場の ICT 化推進！

教育

質疑のポイント

- ☑ 1人1台端末の導入など「GIGA スクール構想」が国において推進される。
- ☑ 神戸市情報教育基盤サービスの（KIF）の再構築のねらいは何か。
- ☑ 学校から家庭への連絡手段に ICT を導入する予定であるが、どのような内容を検討しているか。（平成31年度決算特別委員会より継続）

KIF上では、出席管理、成績処理、教職員の出退勤管理等さまざまなシステムが稼働しており、次に3世代目に履行する。追加機能として、自動採点ソフトウェアの導入、学校ホームページを利用した各校独自のアンケート、保護者宛てメール機能、さらには保護者とのコミュニケーションツールとしてのアプリの導入という幅広いことを取り組んでいきたい。また、学級通信など学校からの配布物も添付可能である。



社会的養育を推進！

子育て

質疑のポイント

- ☑ 国における里親等委託率に対し、神戸市の計画案におけるあるべき里親等委託率はその目標を達成できていないが、どうしていくのか。
- ☑ 社会的養育を担う児童福祉施設と、里親や市内で増えつつあるファミリーホームとの支援協力関係を構築すべきではないか。

神戸市の実情を踏まえ数値目標と達成期限を設定した。また、ファミリーホームの委託の推進を神戸市の計画の中でも掲げており、運営に対する経済的な支援も国に対して要望していく。

停電対策を全市で推進！

危機管理



▶ 燃料電池自動車ミライ

近年、地震や風水害の影響により長時間の停電が都市部に起きている。災害時の停電に備え、電気自動車や水素自動車から公共施設に電力を供給する独自の方式いわゆる「神戸モデル」が一部で試行された。また、自動車会社及び酒造メーカーと協定を締結したが、その狙いと今後の展開について質疑。また、長時間の停電により人工呼吸器等が使用できない場合に備えた非常用発電機の購入に係る助成導入についても質疑。